

ヨシノボリ属魚類のタイプ標本調査

理学研究科 修士課程 1年

国松 翔太

アメリカ合衆国

2020年2月25日～2020年3月16日

計画の概要

本研究は、アジア地域において最も種多様性の高い淡水魚類の一群であるヨシノボリ属魚類の分類学的整理を目的としている。今回の渡航では、アメリカ合衆国にある博物館に所蔵されているタイプ標本群の形態観察を行う。

ヨシノボリ属魚類(*Rhinogobius*)は日本を含めた東・東南アジアの淡水域において最も普通にみられるハゼ科魚類の一群であり有効種は89種とされる。しかしながら、これまでの分類学的研究において、本来不可欠である過去に記載された種のタイプ標本の精査はいまだ十分にはなされていない。こういった分類学的研究の遅れから各国地域での種同定に困難を生じており、生物多様性解明の大きな障害となっている。従って、本属魚類の過去のタイプ標本の精査を含めた包括的な分類学的整理が急務となっている。

アメリカ合衆国にはヨシノボリ属と考えられる担名タイプ標本が5つの博物館に計16種所蔵されている。今回の渡航では、これら5つの博物館のうち、タイプ標本貸し出しが不可能で現地観察しか許可されなかった4つの博物館 Academy of Natural Sciences (フィラデルフィア), American Museum of Natural History (ニューヨーク), Field Museum of Natural History (シカゴ), California Academy of Sciences (サンフランシスコ)にて形態観察を行い、分類学的整理の基礎的データを得る。

成果

報告者が渡航した時期は COVID-19 がアメリカ合衆国内で広がり初めた状況であり、最後に訪れる予定であった California Academy of Sciences は閉館してしまった為、調査を行うことができなかった。Academy of Natural Sciences (ANSP), American Museum of Natural History (AMNH), Field Museum of Natural History (FMNH)では各5日間の調査を行った。

ANSP では、*Rhinogobius chiengmaiensis* と *Aboma tsinanensis* のホロタイプ標本の観察を中心に行った。その結果、*R. chiengmaiensis* がヨシノボリ属の有効種であることを確認した。また、現在 *Rhinogobius similis* の新参シノニムとされている *A. tsinanensis* については *R. similis* に類似するが、形態的に一致しない特徴がみられ、有効性についてさらなる検討が必要と考えられた。その他に分類学的課題のあるコイ科魚類のホロタイプ標本につい

でも計測を行った。

AMNH では、*Gobius cliffordpopei* と *Gobius cheni* のホロタイプ標本の観察を中心に行った。その結果、*G. cliffordpopei* のホロタイプとされる標本はノボリハゼ属であることが判明した。しかしながら、原記載は明らかにヨシノボリ属魚類を示している。そこで、*Oxyurichthys formosanus* のホロタイプ標本を確認したところ、*Gobius cliffordpopei* と考えられる標本が見つかった。これら 2 つのホロタイプ標本を原記載と照らし合わせた結果、89 年以降に 2 つのホロタイプが何らかの手違いで入れ替わったと結論づけられた。さらに、*G. cliffordpopei* は他のヨシノボリ属有効種の新参シノニムであると考えられた。*Gobius cheni* はヨシノボリ属魚類の有効種であることを確認した。タイプ標本ではないベトナム産のヨシノボリ属の魚類標本の観察を行ったところ、少なくとも 2 種の未記載種が見出された。その他に分類学的課題のあるコイ科魚類およびドジョウ科魚類のホロタイプ標本についても観察を行った。

FMNH では、*Rhinogobius formosanus* のホロタイプ標本、*Rhinogobius taiwanus* のレクトタイプ標本、*Ctenogobius leavelli* のパラタイプ標本の観察を中心に行った。*R. formosanus* と *C. leavelli* はそれぞれヨシノボリ属の有効種であることを確認した。*R. taiwanus* は *R. candidianus* の新参シノニムの可能性が高いと考えられた。フィリピン産のヨシノボリ属魚類標本の観察では未記載種と考えられるものが 1 種見出された。その他に分類学的課題のあるハゼ科魚類やコイ科魚類の観察も行った。また、東アジア産淡水魚類標本の再同定を行い、博物館の標本整理に貢献した。

